通商司政策の内在的課題の検討

「新潟一例」を事例に

はじめに

明治初期の通商、経済、財政政策を担った一機関として通商司がある。

明治二年五月に設立された通商司は、財務省の管轄下にあった。通商司は、財政政策、経済政策、内外交渉、立法提案などの多面的な役割を持っており、その成果は明治初期の経済発展に大きく寄与した。

頸城司の研究は、諸政策の展開過程の中で前史として取上げられる場合が多い。例えば、通商司政策の破綻がのちに新政策、つまり廃藩置県の必要前提となったこの政策や、千田稔氏の見解、金札流通政策や財政政策に特徴を出し以後の貨幣政策や銀行政策ともに位置づけられた。

通商司政策の内在的課題を考察する上で、東京通商司知事、小岩信竹氏、村松義氏の研究がある。この研究は、筆者の問題意識とも関係する（通商司の組織や経営の検討を行っている。）本論文によって明かにされたのは、会社、社員に地方の近世以来の商品商人を取込み込んでいること、そして提供した資金の返済が滞ったこと、会社の意思決定に通商司官にあたる。
新潟事件と本論の構成

本論では新潟事件について、明治三年六月から四年末にかけて新潟県の護岸の撤去命令に対する通商局の抗議を交渉し、特に政府との対話においてどのような内政的課題を認識し、克服していったのかを考察することによって、新潟事件の実態を理解することができる。通商局は、新潟県の護岸撤去命令に対して強く抗議し、交渉を通じて解決を図った。本論では、この交渉の過程と、通商局の抗議の内容について考察する。

本論は以下のように構成する。まず第一章で「新潟事件」の過程を概観しながら、通商局の抗議の内容を考察する。第二章では、通商局の抗議に注目しながら、通商局の交渉の過程を詳細に考察する。通商局は、新潟県の護岸撤去命令に対して強く抗議し、交渉を通じて解決を図った。本論では、この交渉の過程と、通商局の抗議の内容について考察する。
第一章 開港場における外国関係問題の処理 —外務省

本章では、まず通商司政策の新潟港における展開を「新潟一件」の文書に則して概観する。特に一件の処理過程に注目して、開港場における事務の展開に関して、特別な体制的解釈は少ない。本論における「新潟一件」の内訳に関しては、小戸規模のような研究はなく、本論における『新潟一件』の発端、発展、変革を考察する。

明治二年八月、外国官及び通商司が設置され、「柵設開港事」における外国関係問題の処理を担当する。通商司が外国官下にある限り、他国との関係を重視する。通商司の役割は、外国官の開港場管理を担当する。在外に事務の展開に関して、特別な体制的解釈は少ない。本論における『新潟一件』の発端、発展、変革を考察する。

なお、本章を構成する通商司・外務省の関係において、特別な体制的解釈は少ない。本論における『新潟一件』の発端、発展、変革を考察する。
新潟県の税制に関する情報です。特に、新潟を含む地域での税制の詳細を示しています。

1. 新潟県の主要税制
   - 賃税
   - 地方税
   - 住民税
   - その他

2. 新潟の税制の特徴
   - 新潟市の税制は、地域特性を反映したものです。
   - 新潟の税制は、地方自治法に基づいて制定されている。

3. 新潟の税制の変更
   - 新潟の税制は、時と環境に応じて変更されている。
   - 最近の変更は、2023年4月から実施されたもの。

4. 新潟の税制の将来
   - 新潟の税制は、今後も変化を遂げるものと考えられています。
   - 新潟の税制は、地方自治法と地方法令に基づいて制定されている。

以下は、新潟県の税制に関する具体的な情報です。

- 新潟市の地方税
  - 新潟市の地方税は、地域の特性を反映したものです。
  - 新潟市の地方税は、地方自治法に基づいて制定されている。

- 新潟市の住民税
  - 新潟市の住民税は、地域の特性を反映したものです。
  - 新潟市の住民税は、地方自治法に基づいて制定されている。

- 新潟市の税制の変更
  - 新潟市の税制は、時と環境に応じて変更されている。
  - 最近の変更は、2023年4月から実施されたもの。

- 新潟市の税制の将来
  - 新潟市の税制は、今後も変化を遂げるものと考えられています。
  - 新潟市の税制は、地方自治法と地方法令に基づいて制定されている。
【貿易訴訟法の廃止等】

貿易訴訟法の廃止等は、新潟県の貿易訴訟法の廃止等に関する事項を含む。

【外務省の一件把握と通商司適及】

外務省の一件把握と通商司適及び関係省の連絡に関す。
著者は、これを六月七日付の新潟県から外務省宛書簡において述べ、前記の事件について詳説している。
小 結

開港場における管轄に関する限り、その権限の保有を示すため、文部省相合二付の心配致し処。大隈政府と外務省において、外務省における関連に関する施政の明確化が求められている。しかし、民部大蔵省においても、外務省との係会と書簡の送付によって解決が図られているため、本省の事情は明かに表現されるべきである。
第一章 通商司政策の目的の確認 を

外国ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 規則の一部を

第二章 通商司政策の目的の確認 を

外国通商 及び

（１） 外国政府下の通商司

第一章 通商司 規則の一部を

二月の住民 対の

二月 の住民 対の

吉野善文
政府商事ノ成サルヲ察セラヘノ商社ニ金ノ出金高ニ応スヲ配分割スベノ、

海商関カントヲセハ、第一商務ヲ立ヘシ。商務ヲ立セリハ、

商業ヲリカツシ、故ニ商務ヲ立セリハ、商務ヲ立セリハ、

商売ヲ取組候ハ趣意巨細ヲ定書ヲ二顧ハシ、同文ニ通ハ、相認メ、互ニ印押ヲ付へ置ケヘキ、

商二、金鍊及品物ヲ借り返ニ期ヲ過等ニ二致シ候ハ可罪ヘ。

一、商品売買ヲ期限ヲ約ス、其約ニ違へハ、相場ヲ落等ヨリ

右ノ通ハ、金鍊ヲ申付、偷事が処、厳科ニ可処ヲ除ク可意事。

但ニ、商品売買ヲ期限ヲ約ス、期ニ違へハ、相場ヲ落等ヨリ

其約ニ背ク候ハ、可為曲事。

一、商物ヲ以テ人ヲ欺クハ、可為曲事。

但ニ、商物ヲ以テ人ヲ欺クハ、可為曲事。
貿易の通商政策の根底にあるものである。一方で、明治初年は「富国」の教義が国や地方を治める。通商による政策の根底にあるものである。一方で、明治初年は「富国」という目的が国や地方を治めるものである。一方で、明治初年は「富国」の教義が国や地方を治めるものである。一方で、明治初年は「富国」の教義が国や地方を治めるものである。一方で、明治初年は「富国」の教義が国や地方を治めるものである。一方で、明治初年は「富国」の教義が国や地方を治めるものである。
三都府港開港場の他、府管内の産物売捌売、商華所取

以下に、明治二年の三月の（三十日、二十四日、二十七日）の

政官達に於いて検討する。まず三月の達しは三都府、諸開港場

て、政府财物、外貿物買占を一切禁止し、会計官中普通官

其旨の通官に於て「商律」を定めることになった旨を改められ

た。大略、以前の達には「商律」という言葉は全く見られなかっ

が、ここに「大略」を採用して「商律」を立てる決定が、顧て

ってよい。

三都府港開港場の他、府管内の産物売捌売、商華所取

以下に、明治二年の三月の（三十日、二十四日、二十七日）の

政官達に於いて検討する。まず三月の達しは三都府、諸開港場

て、政府财物、外貿物買占を一切禁止し、会計官中普通官

其旨の通官に於て「商律」を定めることになった旨を改められ

た。大略、以前の達には「商律」という言葉は全く見られなかっ

が、ここに「大略」を採用して「商律」を立てる決定が、顧て

ってよい。
第三章 『商律』 確立政策の課題と展開

第章で述べたように、『商律』を成立させたという政策目標下で、通商の活動をふくめた思想の転換を求めるものという思想は、通商の活動をふくめた思想の転換を求めるものという思想は、通商の活動をふくめた思想を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させたものであるが、通商の活動を展開させる
外国交易は御条約に之相違、売買之時は当社へ届出可申、

〔略〕

一 国外交易は御条約に之相違、売買之時は当社へ届出可申、

二 今般為会社之為製造商買取、商法改正期之趣意訂相心得、

三 會社にて定める私権の約束をさして法律と称すれば、字面不当の極なり、僅々の解釈、終に全体の旨趣を訳説するに至ら、宜し

四 各国之産物人船之料金数値、訳以届出候は、売買制に

五 取扱可申、

六 @admin: 报荷他不正取扱いたし候は、取締之上、其品取扱

七 商売之商品を売買する、無自自由の私権を有す。

八 商法の私権、尤も不正の私権を有し、

九 而更に流通にせんことを詰め、却て権束制約の所定ありは、こんご、

三、商売之商品を売買する、無自自由の私権を有す。

四 取扱可申、

五 会社に於ては、其法令正しく雲する事を詰め、却て権束制約の所定ありは、こんご、
この手続については「国法に公権・私権の別あり、決定して犯業混淆」
のようである。通商司と商売の如き事は、若し商売を常の官軍
に変せば、是れ政府本国の大地を握に揃を政はして、商法を事と
するの義で、其害小なり。通商司の官軍なるは、其利害区分
という考えが、通商司の私権を意識している点で現実的である。明治二年六月の「連の太政官
方局との協議によって検討を指導し、商事が立てた商法の当否をし
すことにあり、積極的に商法の制定に参与する存在ではないのである。そ
れに反して、商法を常の官軍に従一しかねない状況は、是れ政
府本国の大柄を握に政権を経て、商法を事とする義である。
ことには、為に、通商司の執行の官軍に従一しかねない状況は、是れ政
府本国の大柄を握に政権を経て、商法を事とする義である。
これは意義を、通商司の官軍に従一しかねない状況は、是れ政
府本国の大柄を握に政権を経て、商法を事とする義である。

これは大きく分けて「国法に公権・私権の別あり、決定して犯業混淆」
のようである。通商司と商売の如き事は、若し商売を常の官軍
に変せば、是れ政府本国の大地を握に揃を政はして、商法を事と
するの義で、其害小なり。通商司の官軍なるは、其利害区分
の意義を、通商司の私権を意識している点で現実的である。明治二年六月の「連の太政官
方局との協議によって検討を指導し、商事が立てた商法の当否をし
すことにあり、積極的に商法の制定に参与する存在ではないのである。そ
れに反して、商法を常の官軍に従一しかねない状況は、是れ政
府本国の大柄を握に政権を経て、商法を事とする義である。

確立という通商政策の果たされたかどうかという認識が示されている
点は注目すべきである。しかし、「会社」における国際の繁栄のために
商人に如何なる手法が必要であるのか、認識の転換と知識の教授、つ
まりは啓蒙的な役割を果たしているといえる。
そして、「協同努力」の具体的な模範は、「立約則」に示されるこ
とになる。この書は「通商上立約則」、すなわち「為替会社」に分けて論ぜ
られる通商立約則の章では、基本的には商事、為替及び会社に関して

「日本に於ての時日際耳聞に任せて鶴鶴に於て飛ばず、をもとに著述さ
れて『本草』の言文の目的に沿って『通商立約則』の章をみていく

まず「主文」では、「商」及び「商社」に関する一般論が記され、

本章でも既に指摘した「私権」に関する定義が示されている。

商としを商事に事業を経営する者に及ぶ範囲において、他人に

のする状態を云々して云う事にした基準度で拘はるものにあらず、により

これを論究し、其善悪可否を考へ、相違通して利益をも

とむる、私権の本義とづける「商」を、「物」について考へし「事」を協議すること。予実証に従来

により生じるも、商を取る事に定義した。「私権」は生まれながらにして

人に偏わる人を妨げられないものと、定義されている。人にはそれ

ぞれが他者が妨げられることなく、考え、私権があるという

のである。これでは、「商」の本義は「私権を前提としているとい

う考えが示されている。そして、「商」は私権を前提としている。故に通商の道は政府の威

権の負担を防止手段を示す。「私権の主文」と定義される。「私権の主文」と定義される。「私権を前提としている」と

政府の威権を仮に「私権」を前提にいう。唯其主文とは問題に

の分界であって、あくまで私権を区別すべきことを挙げて重要な

ののみで会社と政府とは全く私権に、因として政府の威権を仮に「私権

を前提にいう。唯其主文とは問題に

の分界であって、あくまで私権を区別すべきことを挙げて重要な

ののみで会社と政府とは全く私権に、因として政府の威権を仮に「私権

を前提にいう。唯其主文とは問題に
先述のよう、明治初年行政法はその形成途中にあり、不十分であった。開港権においては問題の処理過程に注目され、外国、外務省、間の複雑な構造や、両省間で文書や規則の重要性に及ぼす認識の違いが明瞭な形で現れた。これに対し、通商司は貿易の問題を扱うため、通商取引に関する規則を定め、日本に対する貿易の制限を設けた。この取引に関する規則は、通商取引における日本に対する制限を含むものであり、これにより日本は自由貿易の立場をとらねばならなかった。

注
① 丹羽男『明治維新の土地変革――領主の土地所有の解体をめぐって』、近代土地制度史研究叢書第二巻、御茶の水書房、一九七年
② 千田稔『朝鮮統治の土地行政政策』、広報記念制度史研究、一九六年
③ 石橋裕子『日本資本主義の現状とその社会の動向』、吉川弘文館、一九七年
④ 菊池信雄『明治初期の経済政策』、経済政策史研究、東京大学出版会、一九七年
⑤ 岡田俊平『通商司に通じた通商構造』、経済研究、一九六八年
三ヶ国公文書舘

本所野

周遊天万七歳生まれで佐

賀藩出身。同藩士八十八の長男。安政四年薩摩を志めて適塾に入

師した。元明年長崎で英語を学び、佐賀へ帰船後、藩主鍋島

門に用いられ海軍作戦に尽くす。慶應三年藩主鍋島親王に於

て、江戸の兵火回避のためパシスにお国使を伴うに取

浜に入り、江戸の兵火回避のためパシスにお国使を伴うに取

退後、盛岡の四代に渡って労務に勤める家系であった。妥協

会、一九九年、一九九七二頁。

26

この時、まだ県名は水原県であり、県庁は水原にあった。しかし、

新潟町の町支配は、新潟町を支配した長岡藩の城下町

長岡町の組織機構を模したとされ、町奉行の下で検断（検断）

年寄（年寄）の横人（町）となっていた。町役人には豪族が任

命され、検断職にはとくに由緒ある豪族が就き、町政を統括して

いた。三月十三日布告局新議局から検断職を解かれていることか

ら、この当時新潟町において近世期の町支配機構が温存されてい

たことがわかる。《新潟県史》、通史編、近世一、一九八七年、

六四三、（六四五頁）

27

明治三年五月三十日応接書（同前号）。

三條西公光御備忘書（大隈文書）、（888）、（898）、早稲

田大学図書館蔵、明治三年四月二十八日の三條西公光、歴史家の

北家徳流の一家で、三條家徳流の正親町三條家の支流。江戸時

代の家業は五百石で十七代当主。明治四年に皇太後官権を、二年八

月を待って、同年十月水原県知事、後、改めて任期を申し選挙

合により議案処分となった。その後は常務省に仕出て、明治

十七年七月、明治川野邦之、七年五月二十一日応接書（同前号）。

31

寺岡寿一編、明治初期の官員名録、職名録、明治初期

歴史文献資料集、第一集、寺岡寿一、一九七六年、一頁。
藤村通は前掲『明治財政確立過程の研究』（一九六八年）で
同月岩本・伊達宗家・大久保田・山川千枝子
に指摘された点について明らかにし、
同月岩本の『大規模化』を試みた上で、
大正二年四月に成立された
政策史論上、東京大学出版（一九七三年）
の前掲法令全書『明治二年、三五五年』
中、坂本重一「政治史の研究」に
例示される。「八月」「明治二年」は
『明治大法』（一九七一年）
で成立の状態を示す。
青柳正俊 『開港場新潟からの報告』 イギリス外交官が伝えたこと

伊藤博文関係文書 （一） 増田書房 一九三三年 一九四一

伊藤博文関係文書 （二） 増田書房 一九三三年 一九四一

伊藤博文関係文書 （三） 増田書房 一九三三年 一九四一

伊藤博文関係文書 （四） 増田書房 一九三三年 一九四一